

環境創作劇「おかげさまで～す」

気づき、考え、行動しよう！ 大切なつながり

平成27年度 学芸会台本



豊田市立東保見小学校 年 組

名前： _____

登場人物	セリフ	音響など	照明・幕
	第1場面		スポット
ナレーター1	地球上には、たくさんの生き物が助け合いながら生きています。		
ナレーター2	人間も、その中で、みんなの おかげ で生きています。		
ナレーター3	この森にも、たくさんの生き物が住んでいます。		幕を開く
	ちょっと、のぞいてみましょう。	森の音	全照
リス1	(舞台下) 今日もたくさん、ドングリがとれたよ～		
リス2	わあ～すごい!! おいしそうだ～!		
リス全員	おいしそう! おかげさま で～す!		
リス3	ドングリじいさん、ありがとう!		
ドングリの木	どういたしまして。こちらこそ、 おかげさま じゃ。		
リス4	食べよう、食べよう! いただきます!		
ドングリの木	たくさんあるから、だいじょうぶ。		
リス1	ムイト・ボン! (ポルトガル語の「とてもいい」) おいしい!!!		
ドングリの木	リスさんたち、いつもの「あれ」、たのむね。わしは動けないので。		
リス2	任せてください! 森の中で、どんぐりの木が広がるように、がんばるぞ。		
リス全員	1・2・3・4 運びます (アルソック) 今日も休まず運びます 1・2・3・4 運びます (アルソック) 今日も遠くに運びます		
カエデの木1	私は自分の力で、種まきができるわ。みんな見ててね。イチ、ニーのサン、はい! (プロペラの種を回転させながら投げる)	風の音	
風1・2・3	(くるくる回りながら、舞台を横切る)		
リス3	すごい力だね。		
カエデの木1	ありがとう。		
リス4	でも、それって、風の おかげ じゃない? ヒュー、ヒュー!	風の音	
風1・2・3	(くるくる回りながら、舞台を横切る)		
カエデの木1	たしかに... 風さんの おかげ です。風さん、ありがとう。		
風1・2・3	(お辞儀をする)		
赤い実の木	ドングリじいさんも、カエデさんも、がんばってるな。 私も命をつなぐ種まき、がんばろう! さあ、おいしい木の実だよ。いらっしやい、いらっしやい!	鳥の声	
鳥全員	(赤い実の木の周りを飛びながら)		
鳥1	おっ、食料発見、食料発見!		
鳥2	赤色で目立つからすぐ発見できていいな。今からゲットします。		
鳥3	いただきま～す! うめえな、これ!		
鳥全員	おかげさま で～す!		
赤い実の木	いえいえ。後はよろしく! なるべく、遠くで、いつもの「あれ」を		

	やってください。		
鳥4	りょうかいしました！		
ふん1・2	(鳥のふんといっしょに舞台をぐるぐる飛び回った後、花男と花吉の近くにふんは落ちる)		
花吉	あぶな～		
鳥1	あ～、スッキリした。くっさ～		
ふん1	ふん、失礼なやつ！		
鳥2	ごめん、ごめん。あっ、このウンコはスペシャルだから！		
花吉	スペシャル？		
ふん1	ぼくは栄養いっぱいのお土になるんだぞ。		
花吉	そうだった。		
花全員	おかげさまで～す！		
鳥3	さらに、ウンコの中に、ぼくが食べた木の種が入っているんだ。ね、ウンコさん。		
ふん2	ふん、だから、そのうちに、ぼくの下から、木の赤ちゃんがうまれるよ。なかよくしてあげてね。		
木・リス・鳥	オッケー！		
花子1	キャ～！ 花男く～ん！		
花代1	花男くん、ステキ！		
花子1	花男くん、いい男だよ。		
花代1	あ～イケメン！		
花子1	言っちゃおうかな。どうしようかな...		
花代1	花子、勇気を出して！		
花子1	花男くん～、結こんして！		
花男1	いいよ！		
花吉1・花代1	返事、はっ、はやっ！		
花子1	私、花男くんの赤ちゃんがほしいな。		
花吉1・花代1	はっ、はやっ！		
花男1	いいよ！ う～ん、動けない。花子さんが、こっちに、来て！		
花子1	う～ん、私も動けない！ これじゃ、赤ちゃんができないわ。		
花男1	そうだ！ 「あれ」をやろう。		
赤い実の木	まさか... ウンコじゃあないよね。		
花男1	ミツバチさん～、いらっしゃい、いらっしゃい！ おいしいミツがあるよ！ ただですよ。		
ミツバチ1・2	(飛び回って登場)		
花吉1・花代1	よかったあ、ウンコじゃなくて。		
ミツバチ1	おっ、うまそうな、ミツがあるぞ。イエ～イ、いただきま～す！		
	おいしい！ 花男くん、ありがとう。		
花男1	あの～、ミツバチさん、たのみがあるんだ。		
ミツバチ2	いいよ、何でも言って。 おかげさまで だから。		
花男1	ぼくの愛する気持ちを、花子さんに届けてくれないかな。		
		ハチの羽音	

<p>ミツバチ1 花子1</p> <p>花全員 ミツバチ2 花・生き物全員</p>	<p>おあいごようだよ！（花子に花粉を届ける）</p> <p>キャ～！ ありがとう、花男く～ん、ステキ！（手をふる）</p> <p>これで、花男くんの赤ちゃんをうむことができるわ。</p> <p>ミツバチさん</p> <p>おかげさまで～す！</p> <p>こちらこそ、おいしいミツをありがとう。おかげさまです。</p> <p>おかげさまです。</p>		<p>暗転</p>
<p>ルーター4</p> <p>子ども1 子ども2 子ども3 花男2 子ども1</p> <p>花吉2 子ども全員 アス1 子ども2 子ども3 アス1 子ども4 先生1 アス1 先生1</p> <p>アス1</p> <p>先生2 先生1 子ども全員 先生2</p> <p>子ども5 子ども6 子ども7</p>	<p>第2場面</p> <p>おやおや、生き物たちが助け合っくらしている森に、どうやらだれかが来たようです。</p> <p>空気がおいしいなあ。すごく、気持ちがいい！</p> <p>木のおいって、ふしぎと心が落ち着くよね。</p> <p>あっ、きれいなお花。</p> <p>(小声で) サンキュー！</p> <p>(きよろきよろして) 今なんか聞こえたけど、気のせいかな。お花を見ると、何だか、明るい気持ちになるよね。</p> <p>(小声で) サンキュー！</p> <p>(きよろきよろする)</p> <p>暑いなあ～</p> <p>アスさん、服、いっぱい着すぎじゃない？</p> <p>ぬいだら？</p> <p>ぬぎたいけど... どうしても、ぬげないんだ。暑いなあ～</p> <p>先生、アスさん、熱がありそうです。測ってあげてください</p> <p>はい、この体温計で測ってみて、アスさん。</p> <p>(体温計を受け取り、体温を測り、体温計を先生にわたす)</p> <p>あらまあ、38度も熱があるわ。みんなの平熱よりも2度も高いから、つらいでしょ。</p> <p>はい、暑いです。でも、小学校に入ってから、ずっと38度、あるのでいつもと変わりません。先生、だいじょうぶです。いつまでも、熱が下がらないから、ちょっと、イライラしてるけど、この遠足は楽しいです。</p> <p>アスさんは、いつも、たいへんね。</p> <p>さあ、みんな、集まります！ 前へつめて～ 先生の周りに来なさい。</p> <p>は～い。(先生の周りに集まる)</p> <p>では、このあたりでお昼ごはんにしますね。班でまとまって食べてください！ はいどうぞ～</p> <p>おっしゃ～。やっとな当だ～</p> <p>おなかすいた～ 今日の弁当、何かな。</p> <p>は～や～く～ 集まってよ～～～。</p>	<p>森の音</p>	<p>全照</p>

子ども 8	(班で集まったところから元気よく) いただきま〜す!		
子ども 9	はっしー、はっしー、はっしー♪ (箸) (大きいわりばしをわる)		
	(同じ班の子どもも、いっせいにわりばしをわる)		
生き物全員	(おどろいて、わざつく)		
ワニ 1	あ、あ、あ、あれは、何だ?		
ワニ 2	おれは、木のように見えるんだけど・・・あれ、何だ?		
生き物全員	(こそこそ相談する)		
	(お昼ごはんを楽しんでいる)		
ワニ 1	(びくびくしながら、人間に近よる。時々もどったりする)		
	(人間をつつく) あ、ああのお・・・		
子ども全員	ぎゃ~~~~~		
	(班の子がいっせいに弁当を放り投げ、上手へよる)		
子ども 1 1	(ワニをおそろしそうに見る) ワニだ...		
	(人間も、ワニも、お互いにびくびくしている)		
子ども 1 2	私たちを、食べないよね?		
	(よりそい合う)		
	まさか、食べないよ。ぼくたちをハンドバックにしないよね?		
ワニ 3	えっ? ワニ皮のハンドバック? そんなことしないよ。		
たぬき 1	ぼくたち、きょう味があるんだ!		
子ども 8	あっ、タヌキだ。		
たぬき 2	君たちのその道具について、聞きたいんだけど・・・		
子ども 9	ああ! これ? これは、「わ・り・ば・し」(ポーイと捨てる)		
キツネ 1	人間って、それで物を食べるんだな! おいらたちは、手で食べてる!		
子ども 1 0	わりばしが、どうかしたの?		
キツネ 2	そのわりばしってやつは、ずっと使い続けるのか?		
子ども 1 1	そんなわけないやん!!! これは、弁当を食べ終わったら捨てるんだよ!		
ワニ 2	何だって!!!! だから、森の木がどんどん、どんどんなくなっていつてるんだ。		
子ども 1 2	それは関係ないよ。だって、わりばしは、間ばつ材っていう、いらぬ木から作るんだからね。大人たちは森の木を切ったら、森がなくなないように、ちゃんと木を植えているし...		
ワニ 1	本当? あやしい... 人間は信用できない。だって、実際、世界の森はへっているんだよ。		
たぬき 3	ぼくの親せきが住んでいる森もゴルフ場にされちゃった!		
あらいぐま 1	私の親せきの森は野さい畑にされちゃったよ。食べ物がなくなって、おなががすいて、こまって、人間の畑の野さいを食べたら、たたかれて、殺されそうになったらしいよ。		
あらいぐま 2	ひどい! 人間たちが森を取っちゃったのに、分けようとしななんだ!		
子ども 1 3	私たちがやったんじゃない! 大人たちだよ。		
クマ	ひどい、あなたたちの家族でしょ。木も森もへっているよ。私たちの		

<p>子ども</p> <p>子ども10</p> <p>子ども11</p> <p>子ども12</p> <p>イノシシ</p> <p>子ども14</p> <p>花、木たち</p> <p>子ども15</p> <p>ふん3</p> <p>子ども全員</p> <p>子ども16</p> <p>花、木たち</p> <p>子ども15</p> <p>子ども16</p> <p>花男2</p> <p>子ども14</p> <p>花吉2</p> <p>花子2</p> <p>花代2</p> <p>子ども16</p> <p>子ども15</p> <p>カエデの木2</p> <p>子ども全員</p> <p>クマ</p> <p>イノシシ</p>	<p>住むところも、食べる物もなくなっているし... ゾウさんたちは数が少なくなっちゃったの、知ってるでしょ。</p> <p>(ひそひそ自分たちだけで話す)</p> <p>(だまってしまう)</p> <p>あっ、お母さん、私の苦手なブロッコリーをすりつぶして、コロックの中に入れてる！ こんなことしても、私は食べないもんね。残しちゃお~</p> <p>あ〜〜。〇〇君のご飯、いいなあ。△△コンビニの新発売のパンがあるじゃん！</p> <p>いいでしょ〜！ たのんで、入れてもらったんだよね！</p> <p>そのパンが入っているビニール袋も、わりばしのように捨てるのよね。</p> <p>そうだよ？ でも、森にゴミは捨てないよ。ゴミ箱へ捨てるよ。</p> <p>(植物たちにスポット／太陽があたる)</p> <p>いくぞ！ (両手を上に広げて、ぶんぼる) ん〜！！</p> <p>もしかして... ウンコ？ だいじょうぶ？</p> <p>ふん、ちがうし。ほら、木の赤ちゃんが出てきたよ！</p> <p>すご〜い (などの言葉をそれぞれ、つぶやく)</p> <p>なんだか、おいしそうな、いいにおいがするぞ。</p> <p>じゃん！ (食べ物を出す)</p> <p>え？ 何それ！</p> <p>えっ？ 食べ物が出てきたけど？</p> <p>私たちは、太陽の光があれば。自分たちでデンプンのケーキを作れるんだ。</p> <p>すごっ！ ま法みたい！</p> <p>私たちは食べる分だけを作るんだ。</p> <p>それに、ふくろも、はしも使わないよ。</p> <p>だから、ゴミなんかでないんだよ。</p> <p>すごえ！でも、おれらは人間、できないから！</p> <p>私たちがゴミを出すのは仕方がないわ。</p> <p>仕方がない？ 君たち、人間のせいでどれほど、地球の環境がひどくなっているか知らないのかい？</p> <p>え？</p> <p>みんな！ みんなの不満をもっと教えてくれ！</p> <p>裁判を開くんだ。さあ、集まってくれ！</p> <p>裁判長！こちらへ来てください</p>		<p>暗転</p>
<p>ルーター5</p>	<p>第3場面</p> <p>生き物たちは、どうやら人間たちに不満があるようです。</p>		<p>スポット</p>

ルーター6	生き物たちの不満は、人間に届くのでしょうか。		
ルーター7	裁判長はいったい誰なのでしょう。この裁判の判決はいかに！ (人間たちがまん中、動物が両サイドにいる)		
シロクマ1	オッホン！ただいまから、地球環境裁判を始める！！裁判長の登場です！		
アス1	へ～ん しん！（くるくる回りながら退場）		
アス2	私が、今回の裁判長をつとめる「地球の神」である。		
子ども17	ええ～、アスさんじゃん！ 地球の神様だったの？		
子ども18	私たち、神様といっしょに勉強してたの？		
子ども19	すっげえ！		
子ども20	でも、アスさん、相変わらず、あつ着をしてるね。暑そう...		
アス2	だから、ぬぎたくても、ぬげないんだって、これ。		
子ども19	変なの？！		
アス2	今回は、生き物たちからの訴えを聞きにやってきた。訴えられているのは、どうやら人間たちのようだな。		
子ども全員	なんなんだよ～ やだよ（口々に言う）		
シロクマ2	（「どんどんっ！」と木づちを鳴らして） 静しゅくに！		
アス2	これより、生き物たちからの訴えを聞きます。まず、おサルさんたちからの証言です。		
サル1	裁判長！これを見てください！（アルミ缶をまき散らす）これは、私たちの山に落ちていた、アルミ缶です！こんなにたくさん捨てているなんて、信じられません！！		
アス2	本当にかかなりの量だな。人間たちよ。このアルミ缶は1回飲んだら捨ててしまうものなのか？		
シロクマ1	コホンっ！ 調査によりますと、日本では1年間に1人あたり	スライド	
子ども17	135缶のアルミ缶ドリンクが飲まれています。	投影	
子ども18	ガタガタうるさいな！ おれたち、勉強したんだけど、アルミ缶なんかリサイクルすればいいんだよ！ リサイクルを！		
子ども18	そうだそうだ！ リサイクルだ！ リサイクル！ そうすれば、ゴミが資源に生まれ変わる。すばらしい仕組みじゃないか！		
アス2	リサイクルかあ・・・はあ・・・		
シロクマ2	コホンっ！ お言葉ですが、、		
子ども20	何ですか！（強めに言う）		
シロクマ2	いいですか？ アルミを作るのにはたくさんの電気が必要なのですよ！ アルミ缶1個をリサイクルするのに、テレビ3時間見るほどの電気が必要なんです。	スライド	
ゴリラ1	そうだ、そうだ！ 電気をつくるのに、おれらの森だってこわされてるんだ！	投影	
ゴリラ2	森を破かいして水力発電のダムにしているんだ。		
ゴリラ1	切りたおされた森の木は、火力発電所の燃料になってるんだ。たくさ		

全照

	んの森がぎせいになってるんだ。		
サル2	やっぱり、人間のせいで、みんなの森がなくなってるんだ！		
サル1	それに、人間が自然の曲がった川をまっすぐにしたりするから、私たちは子どもたちを育てる場所がなくなったのよ。		
サル・ゴリラたち	そうだ、そうだ！（はげしい、いかり）		
子ども全員	（小さくなる）		
子ども18	知らなかったなあ・・・アルミ缶なんて、リサイクルされているから、ゴミ箱へほうりこんでりゃいいと思ってたよ。		
アス2	まったく、たいへんなエネルギーのムダだな。だいたい捨てるための容器をつくるなんて、おかしいぞ！ 判決は、有罪だ！		
子ども19	こんなことになるなんてなあ。		効果音
子ども全員	（ざわざわする）		
シロクマ1	（「どんどんっ！」と木づちを鳴らして）		
	静しゅくに！ 生き物たちからの訴えを聞きます。次はオサガメからの証言です。		
オサガメ1	私たちは、広い、広い海でくらしています。昔は、青く、光が差しこむ美しい海でした。しかし、今は、人間が使った、きたない水や、ゴミがたくさんういている海へと変わってしまいました。		
オサガメ2	この間、うちのおじいちゃんが、海にういていたビニールぶくろを、えさの「クラゲ」だと思って食べてしまったんです。そのせいで... おじいちゃんは... う、う、う、うわあ〜ん。		
オサガメ3	聞いてください、裁判長！ それに、私たちの赤ちゃんたちも、命を落としているんです。1か月前、砂はまだ、卵から生まれた私たちの大切な赤ちゃんは人間が捨てたゴミに引っかかって、海までたどり着けなくて死んじゃいました。		
オサガメ4	裁判長。これが私たち家族の訴えです。判決をよろしくお願いします。		
アス3	うむうむ。これは... 有罪じゃ！		
	たくさんのゴミを海に捨てるなんてもってのほかじゃ。それだけでなく、カメたちの将来も危うくなっておる。		効果音
子ども21	そんなの、ぼくたちはやってないよ！ 大人がやったことじゃないか！		
アス3	そうかそうか。自分たちは絶対やってないのだな。海にだけじゃなく、公園や、道でもゴミを捨ててないんだな？		
子ども21	そう言われると...		
子ども22	私、海じゃないんだけど、公園で遊んでいるときにお菓子のゴミをポイ捨てしてしまったことがある。		
子ども23	ポイ捨て... ぼくもだ。		
アス3	次の訴えを聞く。次は誰だ！		
トラ1	次は、おれたちだぜ。裁判長さん。		

ゾウ1	人間は本当にひどい生き物だ！		
トラ2	昔は、おれたちを「神」や「神の使い」として大切にしてくれた。なのに、最近は、「かり」の楽しみのためだけに、おれらを殺すんだ。		
トラ1	そうだ。殺された仲間たちは、おれたちの自まんの毛皮をはぎとられたんだ。		
トラ2	毛皮製品にしたり、はく製っていう置物にして、かざったりしているって話だ。こんなのひどすぎるぜ！		
ゾウ2	そう、それに、人間はぼくたちのキバ、ゾウゲをほしがるんだ。ゾウゲをとるためだけに、ぼくたちの命をうばう人がいるんだ。知っていましたか？		
子ども24	うん、アフリカとかにいる、悪いハンターたちでしょ。でも、ぼくたち日本人には、関係ないよ。		
ゾウ1	そうかな、印かん... う～ん、ハンコ、お家の人は持ってるよね。今でもゾウゲの印かんをほしいっていう人、日本にもいっぱいいるんだよ。		
ゾウ2	それに、ゾウゲは三味線や琴という、日本の楽器にも使われているんだ。		
子ども25	ええ～、それらは、私たちの伝統文化だから、少しぐらいは仕方がないでしょ。許してよ。		
ゾウ1	でも、ぼくたちの命だよ。ぼくたちはもう地球上から、絶めつしそなんだよ。つまり、みんな死んで、いなくなっちゃうってこと。		
子ども全員	...		
アス3	う～む！ なんということだ...		
虫1	知っていますか？		
ゴリラ2	今から100年前は1年に1種類の生き物が絶めつしていました。	スライド	
オサガメ2	でも、今では、なんと、1日に約100種類の生き物が絶めつしているのです。	投影	
子ども26	てことは、1年で約3万6千5百種類もの生き物が絶めつしているわけ？		
虫2	その通りです。		
子ども27	やばっ、そんなにたくさん...		
子ども28	これも全部、人間のせいなの？		
虫3	そうだ！ そうだ！		
虫4	人間が森をこわしたからだ！		
虫5	地球上から、1秒間に、サッカー場一面の緑が消えてるらしいよ。	スライド	
虫6	人間が農作物を育てるときに、農薬をいっぱい使ったからだ！	投影	
シロクマ1	人間がぼくたち生き物のことは考えないで、自分たちのことしか考えていないからだ！		
虫2	どれだけ、泣いても、泣きたりないんだ！		
子ども24	そんなあ... ぼくたちをいじめないで。		
虫3	ちがう!!! 人間がぼくたちをいじめたんじゃないか！		
虫4	ぼくたちを大切にしないと、人間も大変なことになるんだよ。今、ミツバチさんの数もへってるのは知ってる？		

子ども25	そうなんだ... じゃあ、ハチミツが食べられなくなるのか...		
子ども26	残念...		
虫5	それだけじゃないんだよ。ミツバチがいないと、農作物の35%はできないんだ。		
子ども18	あっ、ミツバチさん、男の花と女の花が赤ちゃんをつくる手伝いをしてくれるよね。		
虫6	そう、それを受粉って言うんだよ。ミツバチが受粉してくれるから、農作物がとれるんだ。ミツバチさんがいなくなると何が食べられなくなると思う？	スライド 投影	
子ども28	ゴウヤとか、カボチャとか...		
オサガメ3	そうだね、あとは、イチゴ、リンゴ、みかん、スイカ、サクランボ、トマト、にんじん、玉ねぎ、コーヒー豆...		
オサガメ1	まだまだ、いっぱいあるけど、ミツバチさんがいなくなると、みんな食べられなくなっちゃうんだ。		
子ども29	ええ〜、イチゴが食べられなくなるなんて...		
子ども30	そんなことが、地球で起きているんだ...		
子ども全員	(追いつめられた表情で、ざわざわつく)		
アス3	人間はここでも、有罪だ！		効果音
シロクマ2	(「どんどんっ！」と木づちを鳴らして) 静しゅくに！ これより、さらに、生き物たちからの訴えを聞く。アヒルさんからも証言があります。		
大人全員	(突然車が登場する) へいへいへ〜〜〜い。どうしたんだ？ そんなにたくさん集まって！ 何してんだよ！		
アヒル1	裁判長これです！！ この「車」というやつが！！ 環境を悪くしてるんです！ 本当に、人間は何を考えていることやら...		
アス3	話してみなさい！		
アヒル2	はい気ガスです！ 車からは大量のはい気ガスが出るんです。それなのに...		
大人1	ちょっと待って〜。何、ガーガー、言ってんの？ そんなこと言っただって、車はとっても便利だし、カッコイイじゃん。みんな車に乗ってるんだから、アヒルさんも作れるもんなら、自分で車を作って、乗ればいいじゃん。車に乗って何が悪いんだよ！		
アヒル3	車なんて、必要ない、必要ない！ 車のはい気ガスが地球の空気をどれほどよごしているか。知らないの？ それに、私たち生き物にとって、今最大のピンチになっている、大問題、知らないの？		
大人2	きょう味、な〜い。さあ、今日はどこにドライブに行こうかな♪		
アス3	いかげんにしなさい！！！ ここは法ていですよ。		
大人3	はい、えらい、すんませ〜ん。大問題って？		
アス3	私が暑くなっているという問題、つまり...		
スズメ1	地球温暖化の問題です。例えば、はい気ガスがふえ続けると二酸化炭	スライド	

	素というものがふえます。また、ゴミを燃やせば燃やすほど、この二酸化炭素がでます。今、その二酸化炭素のせいで、地球の温度が少しずつ上がってきているのです。はい。	投影	
大人1	そんなの、1度ぐらい、上がっただけでしょ。それがどうかしたのかよ！		
カラス1	知らないんですか？ それはひどい。まず、気候がおかしくなるのに気づきませんか？		
大人2	べつに、ふ通だし。		
スズメ2	いいえ、大きな台風が、前よりもたくさん起きるようになったし、ゲリラごう雨といって、急にたくさん雨が降ってこう水になったりしていますね。		
大人3	たしかに聞いたことはあるな。		
カラス2	温暖化が進むと雨がもともと多い所はもっと雨がふって、雨が少ない所はもっと雨がふらなくなります。雨が少なくなると、農作物がかれたり、砂ばくが、どんどん広がったりします。		
スズメ1	つまり、食べる物がなくなっていくということで、私たちも、あなたたち人間もみんな、うえ死にすることになるんですよ！		
大人1	なんか、やばそうだな。 (声をふるわせて言う)		
カラス1	それに、それに、それに！！！！ 南極や北極の氷もとけてしまうので、海水の量がふえてしまって、海につかってしまう国がたくさん出てきちゃうんです！ ツバルや、キリバスという国では、もう家が水びたしになってしまった人がいて、外国にひなんをし始めましたよ...	スライド 投影	
子ども31 マグロ	え～、じゃあ、日本も、将来そうなるの？ 残念ながら、その可能性は十分あります。それに、温暖化で、私たち魚が住むところになっているサンゴが死んでしまったり、えさのプランクトンが少なくなっているんです。だから、私たち魚の数もへってきちゃうんですよ。		
子ども30	え～、ハチさんがいなくなって、野さいや果物が食べられなくなって、雨がふらなくてお米も食べられなくなって、その上、魚まで食べられなくなるの！！！！		
大人2	そそそ、そんな。地球温暖化だとは知っていたが、ただ暑い日がふえるだけだと思っていたよ。そんなことまで起きるんなんで...		
アス3	人間は、自分たちの生活の便利さを求めるがゆえに、みんなの地球をこわしている。		
生き物全員	「そうだ！」「どうしてくれるんだ！」「なんで、おれたちがこんな目にあわなくちゃいけないんだ」(口々に言う)		
アス3	何よりも、けしからんのは、人間から、「 おかげさま で生きている」という、自然に対する感しゃの気持ちが伝わってこないことだ。 全く、1人で生きれると思っているのか？ これは、もう、決まっておる！ 有罪じゃ！		
		効果音	

子ども31	いったい、私たちはどうしたらいいの...		暗転
	第4場面		スポット
ナレーター8	とうとう、人間に多くの有罪判決が下されました。生き物たちの不満、訴え... 本当に大きな問題です。		
ナレーター9	私たち、人間はいったい、どのように生きていけばよいのでしょうか？ (人間がフロア、生き物たちが上)		
子ども32	なんか、みんなに、いろいろ言われて、自分たちがイヤになっちゃった。		
子ども33	う～ん。そうだね。自信がなくなってきた。暗くなってきた。	森の音	全照
子ども34	ふう～ (深呼吸をする)		
子ども35	森はやっぱり、空気がおいしいなあ。 (深呼吸をする)		
子ども36	なんだか、気持ちが明るくなってきた。		
子ども37	立ち直るの、はやっ！		
子ども全員	いいね、いいね！		
子ども38	アスさん、実は46億才だったんでしょ。		
子ども39	すごいよね。アスさんが生れたころは酸素がなかったんだよね。		
子ども40	その後生まれた植物さんたちが酸素を作ってくれた おかげ で、私たちは息ができる、生きられるようになったんだよね。		
子ども41	木のおいって、やっぱり心が落ち着く。木のお おかげ で元気になるね。		
子ども42	そうだね、いつまでも、落ちこんでいてもしょうがない。だ・か・ら、今をエンジョイしますか？ (ケミカルライトを体に付けて、セカオワの曲「生物たちの虹色の戦争」に合わせて踊る)	楽曲	暗転
子ども43	イエ～イ！		全照
子ども44	いいね、いいね！		
子ども45	それって、熱くないライトでしょ。	スライド	
子ども46	人間がホタルさんに教えてもらって作ったらしいよ。	投影	
子ども47	(水着を着て泳ぐまねをしながら、すばやく動き回る) イエ～イ！ この水着はオリンピック選手が着ていたのと同じ！ 魚のカジキさんの体からヒントをもらって作ったんだって。	スライド	
子ども43	みなさん、動き回って、つかれたでしょう。さあさあ、こちらのダンボールのイスで休んでください。	投影	

子ども 4 3	ダンボールにも生き物から学んだ知恵が生かされているんだよね。	スライド 投影
子ども 4 4	そうそう、ハチさんの知恵だよ。ハチの巣は、六角形がいくつも集まってできているハニカム構造をしているんだ。この構造が軽くて強いので、ビルや新かん線や人工衛星にも使われているんだよ、知ってた？	
子ども 3 2	すごい！ ハチさんが作ったものの おかげ で、人間は宇宙を生活に生かすことまでできるんだね。	
子ども 3 3	すっげえ、ハチさん！ おれら、人間も頭いい！	
子ども 3 4	はい、リンゴをどうぞ！	
子ども 3 5	いただきま〜す！ うまい！	
子ども 3 6	そう、ハチさんの おかげ で、私たちは、おいしい野さいや果物を食べることができるのね。	
子ども 3 7	ハチさん、ありがとうございます！	
アス 4	おっ、何だか、いい感じに、心が変化してきたようじゃな。	
子ども 3 8	あっ、アスさん！	
子ども 3 9	おかげさま で〜す！	
子ども 全員	おかげさま で〜す！	
アス 4	よし、私たちも、人間に協力しよう。	
子ども 4 0	ありがとう！	
子ども 全員	ありがとう！	
子ども 4 1	何だか、地球のために、いいことがしたくなってきた！	
全員	いいね、いいね！	
子ども 4 2	アルミ缶の話があったけど、水とうにお茶を入れて出かけたらいいんじゃないかな。	
子ども 4 3	水とうって、なんかダサイ。お子ちゃまみたいだし、なんかやだな。でも、でも、でも... そんなこと言ってる場合じゃないよね。私たちにできること、もっと探してみよう！	
子ども 4 4	そう！ 買い物に行くときはエコバックを持って行けばいいし、いらぬ物をむだに買ってもらわない！ 私、むだづかいをしない！ 文ぼう具だって最後まで大切にするわ！	
子ども 4 5	じゃあ、私は、むだに息をしない！	
子ども 4 6	え？ それは、無理じゃない？ もっと、できること考えようよ！	
子ども 4 7	そうだ、道ばたの植物をむやみにとらない。草や木は、二酸化炭素をしんせんな空気（酸素）に変えてくれるんだよね！	
子ども 4 1	私、食べるの苦手なんだけど、給食一生けん命食べる。私が食べなかった給食がそのままゴミになるなんて、もったいないもんね。	
代表 1	何だか、希望がわいてきた！	
代表 2	地球の問題を解決するために	
代表 3	これからは、みんなでいっしょに生きていこう！	
代表 4	力を合わせて	
代表 5	明るい未来をつくっていこう	
代表 6	一人でできないことがあっても	

<p>全員 代表7 代表8 全員</p>	<p>助け合って おかげさまの心をもって 私たちの生きる地球を 大切にしていこう</p>	<p>楽曲</p>	
<p>全員</p>	<p>♪ 歌「WE ARE THE WORLD」</p> <p>We are the world, we are the children ウィアーザ・ワー・ウィアーザ・チルドレン ぼくらは仲間 ぼくらは子どもたち</p> <p>We are the ones who make a brighter day ウィアーザ・ワン・フメカ・ブラダデ 明るい明日を作るのは ぼくらの仕事</p> <p>So let's start giving ソレッタ・ギビン さあ今こそ始めよう</p> <p>There's a choice we're making ゼッツア・チョイソ・ウィメーキン 選ぶのは君だ</p> <p>We're saving our own lives ウィ・セービ・ワ・ランライ (ヴ) それは自分の命をすくうことなんだ</p> <p>It's true we'll make a better day イッ・トゥル・ウィメカ・ベダデ 本当さ 住みよい世界をつくるのさ</p> <p>Just you and me ジャス・ユアンミ 君とぼくで</p>		
<p>代表9 全員</p>	<p>ありがとうございました！ おかげさまで～す！</p>		<p>幕が閉じる</p>